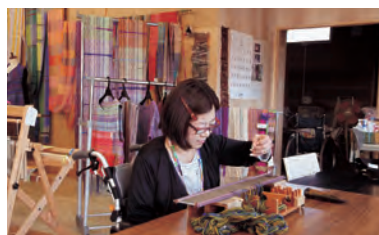


# キラリ☆中野のチカラ

## 渡辺 智子<sup>わたなべ ともこ</sup>さん 【長嶺】



9月19・20日に長野県障がい者福祉センター「サンアップル」(長野市)で行われた第18回長野県障がい者文化芸術祭の作品展において、手芸部門の優秀賞(長野県教育委員会賞)を受賞された渡辺智子さん。

病気により右上下肢に障がいをお持ちで、のぞみの郷高社に通所されながらコツコツと作品づくりに取り組んで来られた渡辺智子さんに今回はお話を聞きました。

### ○のぞみの郷 高社

3年ほど前に病気により右上下肢に障がいを持ちました。県のリハビリセンターでリハビリを行い、今年の7月から「のぞみの郷 高社」に通所しています。スタッフの方に優しく支えてもらい、利用者同士も仲が良く、楽しく過ごしています。

### ○作品づくり

元々裁縫が得意だったことからスタッフの方に作品展への出品を勧められ、今年の夏から作品制作を始めました。ほぼ毎日、のぞみの郷 高社別館の「まーぶる」に通い、一日2時間の作業を続け、約1カ月で洋服が完成しました。色とりどりの糸から「さをり織り」というはた織りの仕方で生地をつくり、デザインを行いミシンで縫っていく作業の様子は、色や形のイメージが徐々に形になっていき、とても楽しかったです。



▲渡辺さんが通う事業所「まーぶる」  
▶第18回長野県障がい者文化芸術祭の作品展・手芸部門において優秀賞を受賞した渡辺さんの作品



### ○今後の抱負

作品展で優秀賞を受賞することができ、驚いたと同時にとてもうれしかったです。出品後も作品づくりを続けていて、現在は、タペストリーやブラウスを作っています。

また、来年の作品展には、コートを作して出品しようかと今からイメージを膨らませています。

### ○市民の皆さんへ

「さをり織り」は、温かみのある色遣いと、優しい生地の雰囲気の魅力です。「まーぶる」では私たちの作品を展示・販売していますので、お気軽に見に来ていただければと思います。

中野市合併10周年記念

## 広報クイズ



### ■今月のプレゼント

中野市産「果肉が赤いリンゴ」…2人

### 問題

認知症サポーターの目印となる  
ブレスレットの名前は？  
「●●●●●●●●」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などをはがきを書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 11月27日(金)必着  
※当選はプレゼントの発送をもって  
代えさせていただきます。

先月号の答え 中野市音楽団体連盟  
に加盟している音楽団体はいくつ？

答え・・・「32団体」

383-8614

(住所記載不要)

中野市庶務課  
秘書広報係 行

住所・氏名・年齢・  
電話番号・世帯主

# 市民リレー元気の輪

No.16

勝野芳久さん  
からのご紹介



## ○自己紹介

夫の仕事の関係で海外に3年間住み、言葉が分からない苦しみを身に染みて感じた経験から、公民館などで行う市内在住の外国人のための「日本語教室」に20年ほど関わっています。ひとときに比べると市内の外国人の数は少なくなっています。が、在住期間が長くても、言葉だけでなく生活の仕方や文化の理解が難しい方が大勢いるので、少しでも手助けできればと考えています。

また、選挙管理委員をやらせていただいて3年目になります。昨年の冬に行われた衆議院選の際、中山間地で出張期日前投票所を開設しました。何人かのお年寄りが、雪の坂道を杖をつきながら登って来られ、投



矢沢 玉枝 さん (上小田中)

票する姿に、自分の一票を大事にされている思いが表れていて、忘れられない情景となっています。

最近、「社会を明るくする運動」をテーマにした市内小中学生の作文を読ませていただく機会があり、子どもたちの「思いやり一つで仲良くなれる」という共通した純粹さに心を打たれました。心を知り、人と通じることのできる瞬間が私の喜びです。



▲庭の花を手入れする矢沢さん

## ○元気の秘訣

毎朝30分ほどウォーキングをしています。清々しい空気の中を歩き、行き会う人と声を掛け合うことで、元気をもらっているように感じます。

## ○おらほの自慢

果樹園や野菜畑に囲まれ、生き生きと元気に働く農家さんがたくさんいらっしやることです。

また、地区の秋祭りでは大きな幟や櫓をみんなで協力して建てます。こういった地区の方たちと一致団結する場があることが、災害時などにも地域のつながりとして役に立ってくると思います。

# 池田市長の

# わくわくレポート

vol. 27



## 地方創生と中野市

人口減少と一極集中は正の為、地方創生が地域にとって課題となっている。「まち、ひと、しごと」の創生を通じて、地域の元気を取り戻し、日本の元気をというシナリオである。さて、ここで現下の社会状況を見てみると、昭和49年にわが国の合計特殊出生率（人口置換出生率ともいわれ、人口が減少しない出生率のことをいう）が2.07を下回った。

料があるところに散在する。工業化が進むと中枢管理機能が離れて位置する中枢管理都市、いわゆる大都市が形成される。脱工業化が進むと生活機能が生産機能の「磁場」となり、知識産業は、優秀な人間が集まり育つ地域に立地せざるを得なくなる。農業も、工業化ではなく知識集約化が進む。つまり、人間が住みたいと思いたい地域とは、自然環境と人的環境の豊かな地域になる。そうした地域に生産機能も集まることになる。」

以来40年、わが国は、現在の状況が来ることを認知していた。社会は人の有機的な組織体である。時の為政者はいずれ問題となることを分かっていたながら、何等対処してこなかった結果が今にある。わが国は戦後の急激な人口増加に支えられ、工業社会を謳歌し、経済大国としてその足場を作り得たのも人口増加である。さて、神野直彦東京大学名誉教授は人口減少問題に関して以下の如く述べている。やや長いが多少文章を要約してみると次の通りである。

「農業社会では農村に生産機能も生活機能も存在する。工業社会になると生産機能が存在する地域が都市となる。これが工業都市の出現。工業社会の初期には、工業都市は原材